

山を見届けるマニュアル



マニュアルの目的

- 素人山主さんが、自分の終活も含めて山をどうするか考える際に、相談できる窓口や、頼りにできる情報が整備されていない。（あっても山主さんがわからない。）
- 山の整備や処分の責任、ひいては災害対策などの管理義務が、山主さん個人の負担となっている。
- このような心配と責任を抱えながら思考停止に陥る孤独な山主さんに寄り添い、所有山林に対して、山主自身や山の継承者、地域にとって良い選択をサポートできるようなマニュアル作成を目指す。

ある山の終活を考える山主（丹羽さん）の思い

・ 丹羽さんの選択肢

- ① 人工林のまま、間伐を続ける。
- ② 収穫伐を行い木材収入を得て、できるだけメンテナンスコストのかからない新たな森づくりを行う。
- ③ 不動産としてこの山を売却など処分する。

・ 施業方法を選択した丹羽さんの気持ち

- 義父から受け継いだ山を、成仏させたい。本当は「あがり！」と言いたい。
 - 間伐を続けることは、問題の先送りになってしまう。
 - 次世代には、意思のあるバトンを渡したい。責任や重荷は残したくない。
- ②の選択肢を選んだ。

ある山の終活を考える山主（丹羽さん）の思い

- 山の施業に対して

- 今回の施業を終えて、心配事は減った。まあまあ見届けた気持ちになれた。
- 近所の人とは、もっと早く話をしてから施業を行えばよかった。施業集約も考えられたかもだし、他のアイデアも出てきたかもしれない。
- もうちょっと余裕をもって、遊ぶことを考えてからできたらよかった。（山の棚卸しや、木の使い道を考えるなど。）

- 「山林を見届ける」これからについて

- この話し合いを、もっと小さい単位でたくさん実施したい。
- これまでのプロジェクトを通して、山主さんたちが、皆素人とわかった時に気持ちや行動が変わる瞬間を見てきた。→山の見届け、という手の差し伸べ方があるのではないか。
- 山主さんたちがどういう課題を持っていて、どこでつまづいているのか。あなただけじゃないよ、段取りを踏めが皆んなできるよ、ということを伝えたい。
- 「山が金にならないならいらない」と戦わなければならない。
- 心地よく山主であり続けるには。個人だけでなく、隣人や地域との共管と連携が必要。

マニュアルの構成案

- 山主が山を見届けるにあたって、下記のような項目をまとめる。

- 「自分は何を不安に感じているのか？」
- 「だれにその不安をぶつけばいいのか？」
- 話を始める前に知っておくべきこと。

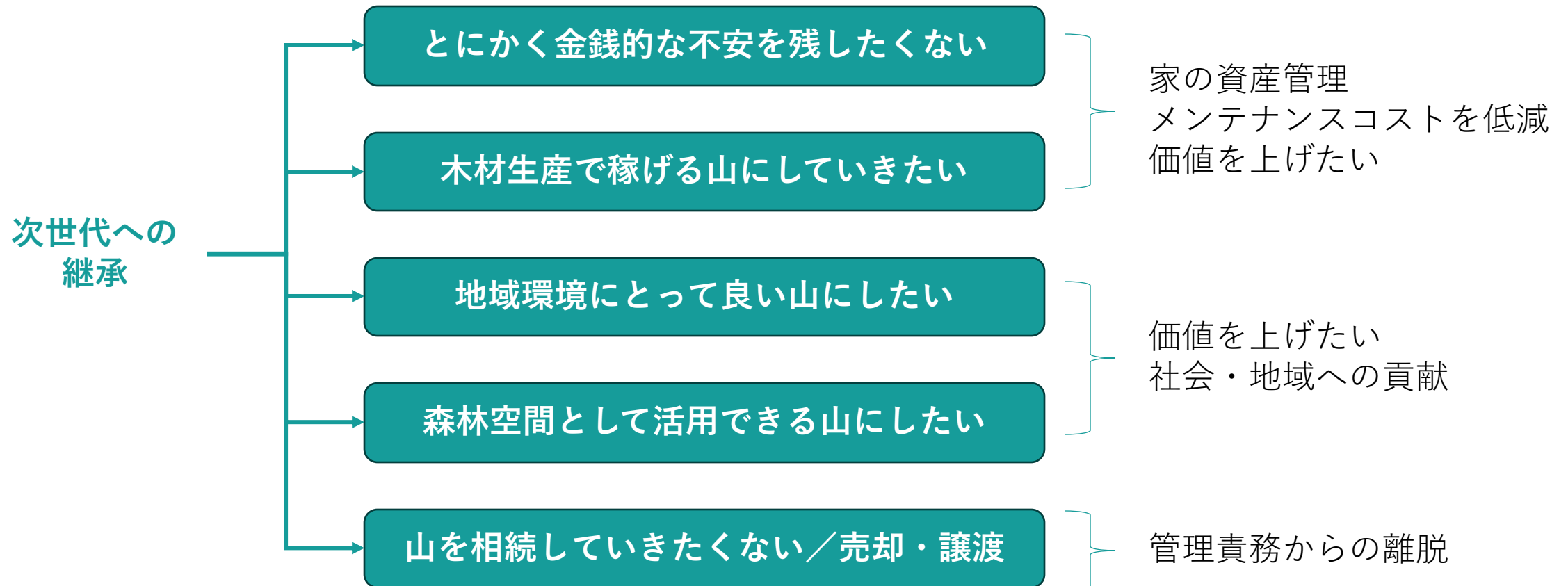
適切に相談を行うための「お作法」は？相手の「言語」を知る、相手の対応できる範ちゅうを知る、相手を動かすための手順を知る。

→山主は、自分の山がどんな世間の「コトワリ」に縛られているのかを知る。

- また、丹羽さんのケースをモデルに、丹羽さんがもう一度山を見届けるなら…もっとこうしたい、こうすればよかったケースをまとめる。

出発点→次世代への継承

気持ちと実際の行動を、どう分けていくか。



今後の予定

- **山主のつまづき、課題をより明確化する**
 - 直接ヒアリング（終活山主）→ 課題の深化／掘り起こし
 - 山主アンケート→ 課題の検証
- **山を見届けたい山主に対して、どのような対応ができるか？**
 - 森林組合、林業事業体、土業の方、行政の方々に話を聞く
 - 課題を受け止める側の意識、モチベーション、言語
- **終活山主の課題対応（解決はできない）に向けた支援策の検討**